

第IV号(年末拡大号)

出版日: 12月27日
編集者: TATSUYA

Circle Oking

結果発表

12月26日 土、早稲田大学新学生会館地下の多目的ホールにおいて、放送研究会の製作番組にWASAが参加した。WASAが参加したのは、サークルキング」というコーナー。このコーナーでは、①縄跳び、②ダウト、③クイズの三種目を競い、早稲田で一番のサークルを決める。WASAから出場したのは、北島先生(鳥)、木戸氏(メカ)、正沢氏(ロケット)、小野氏(天文)の4名であり、他の参加団体はショッカーズ(チア)、タッチネッツ(バレエ)、運スタ(早稲田祭運営委員)という、地区大会を勝ち上がった強豪達が揃った。1種目の縄跳びでは、

他サークルが長さ20cmほどの激短縄、物干しぎお、折り紙の輪で作った縄などに苦戦している中、WASAは周囲を圧倒するポテンシャルを見せた。WASAが挑戦したのは、ストッキング縄跳び。ストッキングの伸縮性を利用したハイテンポな縄跳びでメンバー全員が終始余裕の表情。WASAは縄跳びで1位を獲得し、2位をリズムミカルな動きが持ち味のショッカーズが獲得した。2種目のダウトでは、WASAはフェイクピクチャー」という競技方法を選択した。チームの全員が、スクリーンに映し出される自分の思い出の写真について話し、MCからの質問に答える。しかし実はチームの4人の中に1人だけ知らない写真について話している人がいるので、それが誰だか当てる、というルールである。他サークルでは、受験時代に使った日本史の教科書や自分のおぼあちゃんなど、色々な写真が映し出されていたがWASAは図らずとも全員が各自のプロジェクトの集合写真を持ってきていたところに、WASAというサークルの雰囲気を感じられた。このダウトでは、北島先生が嘘つき役になり、そして散った。彼のアドリブの弱さが露呈した：かに見えたが、WASAという胡散臭いサークルの胡散臭い性質上、周り

にはそれほど分かりやすいものでもなかったようだ。ダウトが終わったところで、中間発表が行われ、WASAはまだ1位を保っていた。ここでWASAの出場者達の心の中では、賞金の1万円は俺らで焼き肉にでも使うか」という考えが現実味を帯びてきた。だが、10点差を追うショッカーズは、確実にWASAを射程圏内にしていた。最後の競技、クイズゲームに勝負はゆだねられた。1位とはいつても2位と10点差、しかも追ってくるのはショッカーズというプレッシャーが、理工地区代表のWASAに重くのしかかった。イントロ問題、2曲当て問題など、音楽に関する問題の正答率で抜群の低さを誇ったが、他のサークルが手も足も出ないような問題でしっかり稼いだWASA。唯一、チャレンジクイズという高得点クイズを正解したショッカーズ：長い死闘の末に立ちあがったのは。。。ショッカーズだった。WASAの誰もが優勝を確信していた。北島先生はあの時のことを振り返りこう語る。やたらカメラが僕のこと映してくるなあって。そしたら動き回ってたライトが僕をライトアップして止まったなあって。まだマイクで話す感想とか勝利の秘訣とか決められないよ、どうしよううつとか思ってたんですけどね。

優勝チームとしてコールされたのは隣に座っていたショットカーズさんでした。マジカヨって感じでした。ショットカーズさんも真っ暗の中で「優勝はWASAさんかな?」って何度も言ってきたんですよ。恥ずかしいったらありやしない!」こうして、普段の活動で着てもない白衣をユニフォームとして纏った白きWASAの戦士達は、荷物を取りに部屋へと帰って行った。白衣の天使とは、まさに彼らのことなのだろう、と会場の者たちは誰もが感じたらしい。

いっしょの人は、さっし

今回、2009年最後のWASA新聞ということで、新コーナーを設けた。このコーナーでは、あえて現役チームでなく、OB・OGさん等に焦点を絞る。記念すべき第一回目の今回は、25代フエリングパートリーダーを務めた奥山匠氏に話を伺った。追いコンには来られなかったので、残念がっていた人も多いことだろう。何を隠そう、筆者もその一人である。WASAの中でも、メリハリのきちんとした熱いお方であると筆者の記憶に深く刻まれている。

そんなおつくんに、まずは気になる引退後の生活に

ついて聞いてみた。引退してからはレポートを書く毎日です。応用化学科の3年後期は週4日実験があるので、文字通り書いても書いても終わらないレポートと格闘していました。多分、成功先輩も同じような生活を送っているのではないのでしょうか。あとはTwitterの利用頻度が増えましたかね。着実に廃人への道を歩んでいる気がします。」そう語るおつくんさんの表情は大量のレポート達の相手で疲れているのかと思った。しかし、話し終えたおつくんの顔からは、さすががしいほどの笑顔が見られた。やはり熱い男には何をやらせても楽しまれてしまうようだ。本当に、尊敬すべき先輩の一人である。たとえば、廃人になってしまおうとも。。。

そして、WASAでの思い出についても語ってもらった。WASAでの思い出。。いっぱいありますね。富士川のとびきり、サッカー、密告中:それこそWASA新聞なんかには書き切れないほどに。だけど、やっぱり化学という目で見ると、たくさんの高分子素材に囲まれていたなあというのが思い出されます。ぼくの専門は高分子化学ですから、WASAの現役時代を思い返すと、発泡、スタイロ、ミレファン、CFRP、接着剤など、駆動が使う金属

以外はほとんどが高分子材料で実に幸せでした。もう一回発泡スチロールをやすりたいか、と聞かれれば、間違いなくやすいたくないと答えますが…。あとはあれですね、尾翼2年の北島さんとの愛してる」の言い合いは幸せでしたね。」幸せは人それぞれであるので、高分子素材たちに幸せを感じる人もいるということは当然と言えば当然であらう。しかし、おつくんさんにはもう一つの幸せがあったらしい。筆者は尾翼2年の北島氏に話の真偽を聞いてみた。はい。確かにそれは真実です。僕とおつくんさんは、相思相愛の仲でした。」北島氏はこう語るが、ここで気になるのは、26代主翼パートリーダー、竹井舞子 通称ま〇ま〇)である。ま〇ま〇は、この二人の関係についてどう考えているのだろうか。どうでもいいし」そう強がって言うってみても、本当の気持ちはとても分かりやすいま〇ま〇)であった。ま〇ま〇、これ読んでも怒らないですね。そして、WASAでの活動がおつくんさんにどのような影響を与えたか教えていただいた。化学反応の中にもいろいろな機構があるのですが、その中に「ラジカル反応」というものがあります。ラジカル反応は通常3段階で進みますが、その中の「成長(propagation)」という第2段階

には連鎖反応であるという特徴があるんです。WASA鳥人間プロジェクトはほくのなかで、そのラジカル反応のよりに連鎖反応して、大きな影響を与えましたね。人間関係について学びましたし、なにより、一生モノの友達、先輩、後輩というつながり(結合)ができたことが大きいですね。」化学が苦手な筆者にもここまで分かりやすく解説付きで説明してくれる、おつくくんさん。愛してます。」

Let's 共有結合☆

そしておつくくんさんが、これからのWASA鳥ボロに期待すること、それは「記録にも記憶にも残るフライト」をしてほしい、鳥コンを目標にできることに幸せを感じながら、焦らず楽しく活動してほしいことだとやっていただきました。先輩達の分も、来年まで頑張ろう。そう現役のみなさんも心に強く思っていることでしょう。来年の夏、たくさんの先輩達が応援に来ていただけることを期待しながら、楽しく頑張っていきましょう。…ちなみに、おつくくんさんはこうも話してくれた。「いただいたチャイナドレスはパジャマとして着ていたり着ていなかったり着ていなかったりするので安心してください。」と。フェアリングのみなさん、安心しててください(笑)